

第4学年 道徳学習指導案

2組 計22人 (男子11人, 女子11人)

指導者 中熊 信仁

1 主題名 本当のゆう気 (勇気 1-(4))

読み物資料「なかまはずれ」(学習研究社4年)

2 主題について

(1) 内容項目の系統

【低学年1-(3)】
「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行く」

【中学年1-(4)】
「正しいと思うことは、勇気をもって行く」

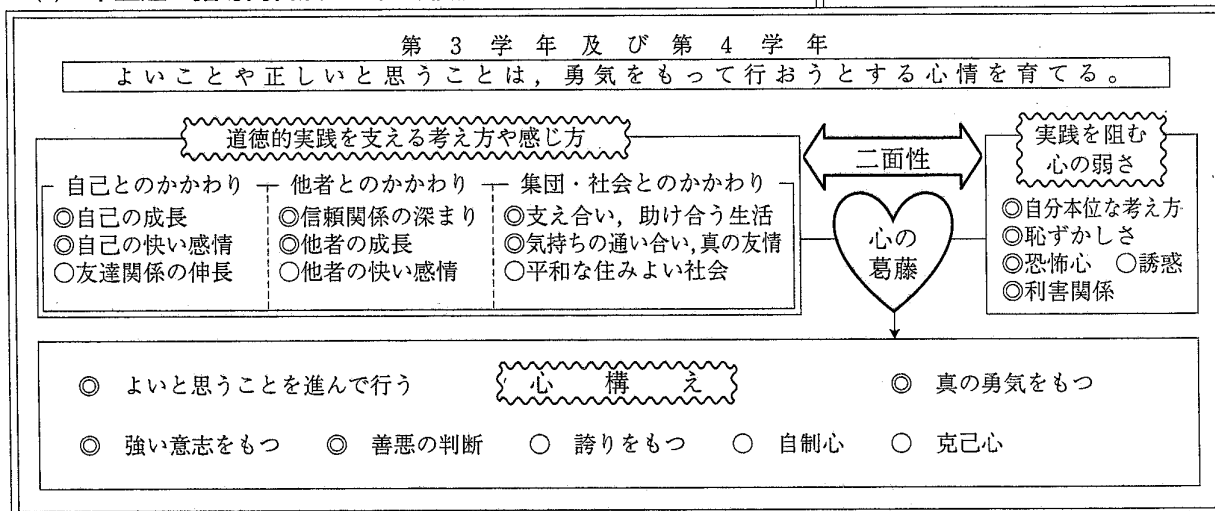
【高学年1-(2)】
「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」

(2) 指導の基本的な立場

真の勇気とは、自らよいと判断したことを実践しようとする気概である。また、何事にも積極的に取り組む姿勢の原動力が勇気であるとも考えられる。

この期の子どもたちは、かなりの認識能力を身につけてきており、正しいことや正しくないことについての判断力も高まってきている。しかし、正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかったり、悪いことと知りつつもつい行ってしまったりする傾向がある。不正やよくないことに対して、勇気ある行動をとれるようにするためには、恥ずかしい、面倒くさいといったような理由で、尻込みしたり傍観的になったりしてしまう心の弱さに気付かせなければならない。そして、このような心の弱さを乗り越えて、よいと思うことを自分から進んで行おうとする積極的な態度を身に付けさせることが大切であると考えられる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(◎は重点項目)

(4) 児童の実態

表1 道徳の時間における基礎・基本についての力の状況 (自己評価 H 14.10.8) (人数)

観点	身に付けさせたい具体的な力	◎	○	△
共感・役割取得	登場人物の立場になって考えることができる。	10	7	5
自我関与	自分の経験を振り返りながら考えることができる。	9	7	6
価値の自覚化	価値の意義について理解できている。	13	6	3
実践意欲・態度	これからの自分の生活に生かそうという意欲をもつことができる。	14	6	2
学び方	友達の考えをよく聞いて考えることができる。	13	7	2
	周囲の意見に流されなくて、自分の考えをしっかりとつことができる。	10	6	6
	自分なりの意見を進んで発表しようとしている。	7	8	7

(◎ 十分満足できる, ○ おおむね満足できる, △ 努力したい)

表2 主題に関する児童の実態 (調査人数 22人 重複あり H14. 9. 10)

(ア) 本主題にかかわる経験場面

勇気をもって正しい行動ができなかった経験	人数
行ってはいけない場所に行ってしまった	7
悪いことをしている人に注意できなかった	6
相手のいやがることを言ってしまった	4
友達を無視してしまった	3
二人乗りはいけないのにしてしまった	2
嫌がらせをされていた友達を助けなかった	2
自転車で公園を走りまわって迷惑を掛けた	1
その他	2

(イ) 本主題にかかわる経験場面

勇気をもって正しい行動ができた経験	人数
信号無視する人に注意した, まねしなかった	7
行ってはいけない場所に行かなかった	5
一人だった友達を誘って仲間に入れた	5
友達のけんかを止めた	3
騒いでいる人に注意した	2
お釣りが多かったのでちゃんと言った	1
知らない人に道を教えた	1
その他	2

(ウ) 道徳的实践を阻む人間的な心の弱さ

勇気をもって正しい行動ができなかったときの理由	人数
友達もしていた, 嫌われなくなかったから	7
おもしろくて, 調子に乗ってしまったから	6
自分も遊びたくなかったから	4
いやと言ったら一人になるから	3
怖かったから, にらまれるから	2
注意しても聞いてくれないと思ったから	2
その他	3

(エ) 道徳的实践を支える考え方や感じ方

勇気をもって正しい行動ができたときの心情	人数
よかった	8
すっきりした	7
いい気分だった	4
自分に勇気が出た	2
自分も同じ経験があったから止められた	1
当たり前だ	1
その他	2

(オ) 価値に対する意義

理由	人数
自分の心がすっきり(さっぱり)するから	9
自分が後悔しないから	6
相手と自分のためになるから	4
他の人に迷惑がかかるから	2
相手も気持ちがよく, 喜んでくれるから	1
その他	2

(カ) 価値に対する心構え

心構え	人数
優しい心をもつ	10
強い気持ちをもつ	6
人を助けたいという気持ちをもつ	4
その立場に立ったときの気持ちを考える	2
きちんと言える考えをもつ	1
その他	2

【考察】

※ 表1から

子どもたちは, ねらいとする価値に気付き, 実践しようとする意欲をもっている。しかし, 登場人物の立場に立って考えたり, 自分の経験を振り返って考えたりすることについては実現の過程にあるといえる。このことから子どもたちは, ねらいとする価値を自分なりの課題としてとらえることが十分にできていないということが考えられる。また, 学び方の観点においては, 友達の意見に左右されずに自分なりの考えをもち, 進んで発表しようとするということについて十分でないと感じている子どもが多い。

そこで, 発問の工夫によって, 登場人物の本音を引き出し, 心の弱さを乗り越えた背景を考えることで, 価値を追究していけるように支援していきたい。また, 教師がいろいろな子どもの考えを取り上げたり, 意図的指名をしたりして, それぞれのよさを認め励ましながら, 発表意欲を高め, 自信をもたせるようにしたい。

※ 表2から

本主題に関する実態では, ほとんどの子どもが勇気をもって行動できなかった経験があり, その理由も「友達もしていて, 嫌われなくなかったから」とか「おもしろかったから」といった利害関係にかかわるものや自分本位な考え方によるものが多い。しかし, 価値に迫る経験に気付いていない子どもも見られることから, 多くの具体的場面状況の設定や振り返り等を通して問題意識を高めていく必要がある。また, 勇気をもって行動できた経験もしており, そのときの心情として「すっきりした」「いい気分だった」など, 迷いを乗り越えた心地よさを感じている子どもも多い。その経験を全体に広げることで, 実践意欲を高める手掛かりとしていきたい。

一方, 正しいことを勇気をもって行う意義や心構えについては, ほとんどの子どもが理解しているが, 中には「何となく」といった子どももみられる。そこで, 資料に登場する, 悪いと知りつつも人に流されてやってしまう年夫と, 正しいと思うことを勇気をもって最後まで貫く明, 二人の行動や言動について共感的にとらえられるようにし, より深い道徳的価値に迫れるようにしたい。

3 本 時

(1) 目 標

- よいことや正しいと思うことを、勇気をもって行うことの大切さをとらえられるようにする。
- 善悪の判断を基に、正しいことは勇気をもって行い、正しくないことは勇気をもってやめようとする実践意欲を高めるようにする。

(2) 指導にあたって

以上のような児童の実態、主題のねらいを踏まえ、次のようなことに配慮して指導していきたい。

「気付く」過程では、一枚絵を提示し、実態調査を基に、勇気をもって行動できた経験やできなかった経験について振り返らせ、子どもたちの問題意識が高まるようにする。

「見つめる」過程では、資料「なかまはずれ」を視聴し、まず、初発の感想を基にして、追究場面を焦点化し、道徳的価値を把握する手掛かりとなるようにする。次に、誘惑に戸惑う主人公の立場を自分に置き換えて考え、自分の行動を予想して心情分布図に表すことで、自己の内面にある感じ方や考え方を客観的にとらえることができるようにする。そして、年夫やみんながおもしろそうに石を投げるのを見ている場面では、明の心の中のつぶやきや本音を引き出し、明の心の中にも年夫と同じように、弱さや迷いがあることに気付くことができるようにする。また、一人残されて仲間はずれになった明の気持ちについて話し合うことで、心の弱さを乗り越えた背景には何があるのかをじっくりと考えるようにしたい。さらに、真の勇気を貫くことは、自分がつらい立場になったり、損をしたりしてでも行動するだけの普遍的な価値であることに気付かせていきたい。

「深める」過程では、正しいことを勇気をもって行ったときの経験を思い出し、できた理由やそのときの気持ちを話し合うことで、勇気をもって行動することの意義や、これからどんな気持ちで生活していくことが大切であるかという心構えについて考えられるようにする。また、「見つめる」過程で心情分布図に表した場面について再度考え、変化した理由を問うことで、自分自身の気持ちの変容に気付くことができるようにしたい。

「高める」過程では、教師の説話を通して、実践意欲を高めるようにする。

※ 資料

【評価規準表】

		内容項目【1-(4)】主として自分自身に関する事	
		道 徳 的 実 践	価 値 の 自 覚 化 の 深 ま り
中 学 年	規 準	正しいと思うことは、勇気をもって行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 正しいと思うことは勇気をもって行い、正しくないと思うことは勇気をもってやめるように心掛けている。 ○ 周囲の考えや誘惑に左右されずに、正しいと思うことは勇気をもって行うことの大切さを理解している。 ※ 正しくないと思うことは、勇気をもってやめることの大切さを理解している。
主 な 指 導 (評 価) の 場			
<input type="checkbox"/> 登下校 <input type="checkbox"/> 朝の会 <input type="checkbox"/> 休み時間 <input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 給食時間 <input type="checkbox"/> 清掃時間 <input type="checkbox"/> 帰りの会 <input type="checkbox"/> 児童会、係活動 <input type="checkbox"/> 遠足 <input type="checkbox"/> 宿泊学習 <input type="checkbox"/> 運動会 <input type="checkbox"/> 学習発表会 <input type="checkbox"/> 日記 <input type="checkbox"/> 保護者との連携 <input type="checkbox"/> 校外学習 <input type="checkbox"/> 全校朝会			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">内容項目に関わる評価規準表を通じた教師の見取り</div>			
<p>本学級の子どもの多くは、正しいことは勇気をもって行い、正しくないことは勇気をもってやめることの大切さに気付いている。しかし、正しくないと分かっているものの、友達や周囲に安易に流されてしまっている子どもも少なくないことが、休み時間や清掃時間の様子からうかがえる。このことから、正しいことや正しくないことについての判断力は高まってきているが、正しいことを勇気をもって行おうとする実践意欲を促すための価値の自覚が十分深まっていないということが言える。</p> <p>道徳の時間を通して、誰でも迷い、葛藤することを認め合いながらも、最終的には自分自身でよりよい方向へ向かえるよう、価値の自覚を深め、道徳的实践力を高めるよう指導していきたい。</p>			

(4) 展 開

学習のめあて

予想される子どもの反応

※ 主題に関する評価

● 道徳の時間における基礎・基本についての重点評価

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
<p>(分)</p> <p>気付く</p> <p>(5)</p>	<p>1 一枚絵を基にして、勇気をもって行動できた経験やできなかった経験について話し合う。</p> <p>正しいと思うことを勇気をもって行うには、どんな気持ちが必要だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の自己評価を振り返ることで、本時の学習に取り組むうえでの具体的なめあてをもつことができるようにする。 ○ 一枚絵を効果的に提示するとともに、実態調査を生かし、経験を想起させることで、問題意識を高め、本主題への方向付けをする。 ○ 登場人物の言動や心情についての感想を基に追究したい場面を焦点化する。
<p>見</p> <p>つめ</p> <p>る</p> <p>(25)</p>	<p>2 資料「なかまはずれ」を視聴し、登場人物の気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>(1) 初発の感想を基に話し合う。</p> <p>悪いと思ったことを最後までしなほくもすぐ誘いに乗ってしなかった明は、とても勇気があるな。 まった年夫に似ているな。</p> <p>(2) 年夫やみんながおもしろそうに石を投げるのを見ているとき、明はどんなことを考えていたのだろう。</p> <p>勇気を出してやめるように言わなくて。いけないことなのに年夫君までどうして。年夫君がやってもほくは絶対やらないぞ。柿の木がある家の人に迷惑がかかる。</p> <p>年夫のように友達と一緒に遊びたいな。言う仲間はずれにされないかな。一回くらいならほくもいいかな。やっぱりだまっていた方がいいかな。</p> <p>(3) 一人残されて仲間はずれになった明は、どんな気持ちだったのだろう。</p> <p>明日からずっと仲間はずれにされるかもしれない。寂しいな。言わなければよかったかな。</p> <p>正しいと思うことは貫くぞ。後悔したくない。勇気を出したんだ。ほくは弱虫ではない。いつかきっと分かってくれるだろう。柿の木の家の人に迷惑をかけてはいけない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心情分布図を活用し、自分の気持ちや考えを客観的にとらえることができるようにする。 ○ 自分にも同じような気持ちになったことがなかったか振り返りながら話し合うことで、登場人物の気持ちを共感的にとらえることができるようにする。 ○ 揺さぶりのある発問をすることで、明の心の中つぶやきや本音を引き出し、明の心の中にも年夫と同じように弱さや迷いがあることに気付くことができるようにする。 ○ 心の弱さを乗り越えた背景を考えることで、価値を深く追究することができるようにする。 ○ 終末に再度、心情分布図を活用することで、自分の考え方や気持ちの変容に気付くことができるようにする。
<p>深める</p> <p>(10)</p>	<p>3 正しいことを勇気を出して行ったときの経験を思い出し、できた理由やそのときの気持ちを話し合う。</p> <p>いけないことだからしてはいけないと自分に言い聞かせたから。友達だから勇気をもって注意しようと思ったから。</p> <p>柿木君は、すっきりした。後悔しなかったから気持ちがよくなった。相手のためになってよかった。恥ずかしくても喜んでもらうとうれしかった。</p>	<p>※ よいことや正しいと思うことは、勇気をもって行うことの大切さをとらえることができたか。</p> <p>※ 善悪の判断力を高め、よいことや正しいと思うことは勇気をもって行おうとする実践意欲を高めることができたか。</p> <p>〈発表・ワークシート・心情分布図〉</p>
<p>高める</p> <p>(5)</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>これまで友達から変に思われると思って、誘いを断る勇気が出なかったけれど、これからはできそうな気がする。</p> <p>友達でも勇気をもって悪いことは悪いと注意できるのが、本当の友情なのかな。</p>	<p>● 自分の経験を振り返りながら考えることができたか。</p> <p>〈発表・ワークシート〉</p> <p>● 自分なりの意見を進んで発表しようとすることができたか。〈発表〉</p>